

研究教育業績（過去5年間）

I. 研究業績

1. 主な発表論文

[原著論文] 査読あり

- 1) Tohkin M., Saito Y., Yagi S., Asano K., Maekawa K., **Osabe M.**, Iida S., Miyata N., Clinical study designs and patient selection methods based on genomic biomarkers: Points-to-consider documents. *Drug Metab. Pharmacokinet.* **35**:187-190 (2020).
- 2) **Osabe M.**, Tajika T., Tohkin M., Allopurinol suppresses expression of the regulatory T cell migration factors TARC/CCL17 and MDC/CCL22 in HaCaT keratinocytes via restriction of NF- κ B activation. *J. Appl. Toxicol.* **38**(2):274-283 (2018).
- 3) Shizu R., **Osabe M.**, Perera L., Moore R., Sueyoshi T., Negishi M., Phosphorylated nuclear receptor CAR forms a homodimer to repress its constitutive activity for ligand activation. *Mol Cell Biol* **37**(10): e00649-16 (2017).
- 4) **Osabe M.**, Tohkin M., Hirayama N., In silico analysis of interactions between HLA-B*58:01 and allopurinol-related compounds. *Chem-Bio Inform.* **16**: 1-4 (2016).

[総説]

[著書]

[その他]

- 1) 長部誠, 薬学教育・研究に関する抱負, 埼玉県薬剤師会雑誌, **45**(2):18-19 (2019).
- 2) 長部誠, DNA 標識金ナノ粒子による遺伝子診断, 日本薬科大学教育紀要, 第V巻 (2019).

2. 主な学会発表

[国際学会]

- 1) Makino R., Okamoto H., **Osabe M.**, Tohkin M., The effect of lapatinib on lymphocyte activation and transcription factors in T cell differentiation. WCP2018 (18th World Congress of Basic and Clinical Pharmacology), July, Kyoto (2018).
- 2) Okamoto H., **Osabe M.**, Hirasawa M., Tohkin M., The evaluation of lapatinib induced hepatotoxicity using an *in vitro* evaluation system for HLA-DRB1*07:01. Society of Toxicology 56th Annual Meeting and ToxExpo, March, Baltimore, Maryland (2017).
- 3) Narita T., Ri M., Kinoshita S., Yoshida T., Totani H., Ashour R., Masaki A., Ito A., Kusumoto S., Ishida T., Komatsu H., **Osabe M.**, Tohkin M., Iida S., Identification of Circulating Serum microRNAs As Novel Biomarkers Predicting Disease Progression and Sensitivity to Bortezomib Treatment in Multiple Myeloma. The American Society of Hematology December, San Diego,

California (2016).

[国内学会]

シンポジウム

- 1) **長部誠**, 頭金正博, アロプリノールによる制御性 T 細胞遊送因子を介した皮膚免疫機能感作, 日本薬物動態学会第 31 回年会, 10 月, 松本 (2016).
- 2) 平沢真, **長部誠**, Lapatinib による特異体質性肝毒性と HLA-DRB1*07:01 の関連性, 日本薬物動態学会第 31 回年会, 10 月, 松本 (2016).

一般発表

- 1) **長部誠**, PM_{2.5} 付着物質による T 細胞分化因子への影響, 日薬研究会, 12 月, 埼玉 (2020)
- 2) 村橋毅, 野中瑞希, **長部誠**, 樋口敏幸, お台場及び葛西海浜公園で採取した海水中の糞便由来の医薬品濃度, 日本薬学会第 140 年会, 3 月, 京都 (2020)
- 3) 半田有紀, 平石千紜, **長部誠**, 頭金正博, アバカビルによる HLA-B*57:01 を介した特異体質性副作用 *in vitro* 評価系の構築, 第 2 回医薬品毒性機序研究会, 1 月, 神奈川 (2020)
- 4) 浦丸直人, 鈴木智貴, 木根淵有香, 川村諒, 渡部容子, **長部誠**, 樋口敏幸, ラズベリーケトンの還元代謝物であるロドデノールによる脂肪蓄積抑制, フォーラム 2019 衛生薬学・環境トキシコロジー, 9 月, 京都 (2019)
- 5) 宮路康平, 岡本秀人, **長部誠**, 頭金正博, Ximelagatran による特異体質性肝障害の発症機構の解析, 第 5 回次世代を担う若手のためのレギュラトリーサイエンスフォーラム, 9 月, 東京 (2019)
- 6) 槇野隆太, **長部誠**, 頭金正博, HLA-B*58:01 を介したオキシプリノールによる細胞傷害性 T 細胞の活性化に必要な抗原ペプチドの探索, 第 46 回日本毒性学会学術年会, 6 月, 徳島 (2019)
- 7) 槇野隆太, **長部誠**, 頭金正博, HLA-B*58:01 を介したオキシプリノールによる特異体質性副作用 *in vitro* 評価系の構築, 第 1 回医薬品毒性機序研究会, 1 月, 名古屋 (2019).
- 8) 宮路康平, 岡本秀人, 槇野隆太, **長部誠**, 頭金正博, Lapatinib による T 細胞分化誘導機構の解析, 第 1 回医薬品毒性機序研究会, 1 月, 名古屋 (2019).
- 9) 中嶋琢人, 亀位涼, 坂部彩, 岡本秀人, **長部誠**, 頭金正博, CLC Genomics Workbench を用いた HLA タイピング法と他のタイピングソフトとの比較, 第 4 回次世代を担う若手のためのレギュラトリーサイエンスフォーラム, 9 月, 東京 (2018).
- 10) **長部誠**, 特異体質性副作用のバイオマーカー探索, 平成 30 年度第 2 回日薬研究会, 5 月, 伊奈 (2018).
- 11) 富吉紜史, **長部誠**, 柴北健佑, 頭金正博, ABCB1 変異型の P 糖タンパク質排出機能への影響, 日本薬物動態学会第 32 回年会, 11 月, 東京 (2017).
- 12) 岡本秀人, **長部誠**, 頭金正博, Lapatinib による T 細胞分化誘導機構の解析, 日本薬学会東海支部合同学術大会 2017, 11 月, 三重 (2017).
- 13) 平石千紜, **長部誠**, 田村花梨, 頭金正博, HLA-B*57:01 を介したアバカビルによる特異体質性副作用 *in vitro* 評価系の構築, 第 3 回次世代を担う若手のためのレギュラトリーサイエンスフォーラム, 9 月, 東京 (2017).
- 14) 岡本秀人, **長部誠**, 頭金正博, Lapatinib による T 細胞分化因子への影響及びその誘導機構の解析, 第 44 回日本毒性学会学術年会, 7 月, 横浜 (2017).

- 15) Tajika T., **Osabe M.**, Tohkin M., The effect of allopurinol on human Treg migration factors, 第 45 回日本免疫学会学術集会, 12 月, 沖縄 (2016).
- 16) Tamura T., **Osabe M.**, Tohkin M., The establishment of in vitro evaluation system for the HLA-B*57:01-dependent cutaneous toxicity caused by abacavir, 第 45 回日本免疫学会学術集会, 12 月, 沖縄 (2016).
- 17) **長部誠**, 田近聡幸, 頭金正博, アロプリノールによる制御性 T 細胞遊送因子への影響, 第 43 回日本毒性学会学術年会, 6 月, 名古屋 (2016).
- 18) 植松紘規, 岡本秀人, **長部誠**, 頭金正博, 次世代シーケンサーを用いた HLA 解析法の確立, 日本薬学会東海支部合同学術大会 2016, 10 月, 岐阜 (2016).
- 19) 槇野隆太, 井口祐美子, **長部誠**, 頭金正博, 特異体質性副作用に関連した HLA 結合ペプチドの探索, 日本薬学会東海支部合同学術大会 2016, 10 月, 岐阜 (2016).
- 20) 岡本秀人, **長部誠**, 平沢真, 頭金正博, HLA クラス II が関与する特異体質性副作用の評価系を用いた Ximelagatran による免疫性副作用の発症機構の解析, 第 25 回日本組織適合性学会大会, 10 月, 札幌 (2016).
- 21) **長部誠**, 岡本秀人, 植松紘規, 頭金正博, 次世代シーケンサーを用いる簡便な HLA 解析法の確立, 第 25 回日本組織適合性学会大会, 10 月, 札幌 (2016).
- 22) 柴北健佑, **長部誠**, 富吉紘史, 頭金正博, ABCB1 変異型による P 糖タンパク質排出機能の低下, 日本薬物動態学会第 31 回年会, 10 月, 松本 (2016).
- 23) Ri M., Okemoto K., Maekawa K., Ito A., Kusumoto S., Ishida T., **Osabe M.**, Nakajima M., Sekine A., Ueda R., Tohkin M., Miyata N., Saito Y., Iida S., 血清の脂質メタボローム解析を用いた多発性骨髄腫治療におけるボルテゾミブの感受性因子の探索, 第 78 回 日本血液学会学術集会, 10 月, 横浜 (2016).
- 24) 岡本秀人, **長部誠**, 平沢真, 頭金正博, HLA クラス II が関与するリンパ球活性化における Ximelagatran の影響, 第 43 回日本毒性学会学術年会, 6 月, 名古屋 (2016).
- 25) **長部誠**, 柴田郁弥, 安部賀央里, 石原佳奈, 田村空彌, 頭金正博, 毒性試験データベースを用いた化学物質によって誘発される肝肥大と薬物代謝酵素誘導との関連性に関する研究, 日本薬学会第 136 年会, 3 月, 横浜 (2016).

3. その他特筆すべき研究業績

- 1) 長部 誠 (代表) 日本薬科大学研究助成金, 「制御性 T 細胞を標的とした PM2.5 に対するあらたな治療戦略の構築」, 350 千円 (令和元年度)
- 2) 長部 誠 (代表) 日本薬科大学研究助成金, 「肥満と PPAR γ による免疫機能への影響に関する研究」, 200 千円 (平成 30 年度)
- 3) 長部 誠 (代表) 科学研究費補助金若手研究 B (文部科学省), 「重症薬疹の発生リスク回避を目指した革新的 HLA タイピング法に基づく診断薬の開発」, 4,160 千円 (平成 29-30 年度)
- 4) 長部 誠 (分担) TaNeDS (第一三共), 「HLA が関与する特異体質性副作用の *in vitro* 評価系と発症機序に関する研究」, 8,695 千円 (平成 28 年度)

Ⅱ. 教育業績

1. 担当授業科目

2020年度

- 1) 卒業研究（薬学科 4, 5, 6 学年）
- 2) 環境・健康科学実習（薬学科 3 学年）
- 3) 栄養と健康（薬学科 2 学年）
- 4) 医薬品食品相互作用学（薬科学科 6 学年）
- 5) 薬学総合演習Ⅰ（薬学科 4 学年）2 コマ
- 6) 薬学総合演習Ⅱ（薬学科 6 学年）6 コマ
- 7) 患者の安全と薬害防止（薬学科 3 学年）SGD3 コマ
- 8) 信頼関係の構築（薬学科 2 学年）SGD4 コマ

2019年度

- 9) 卒業研究（薬学科 4, 5, 6 学年）
- 10) 環境・健康科学実習（薬学科 3 学年）
- 11) 栄養と健康（薬学科 2 学年）
- 12) 公衆衛生学（医療ビジネス薬科学科 3 学年）
- 13) 薬学総合演習Ⅰ（薬学科 4 学年）1 コマ
- 14) 薬学総合演習Ⅱ（薬学科 6 学年）3 コマ
- 15) 患者の安全と薬害防止（薬学科 3 学年）SGD6 コマ
- 16) 信頼関係の構築（薬学科 2 学年）SGD2 コマ
- 17)

2018年度

- 18) 卒業研究（薬学科 5 学年）
- 19) 環境・健康科学実習（薬学科 3 学年）
- 20) 栄養と健康（薬学科 2 学年）
- 21) 薬学総合演習Ⅰ（薬学科 4 学年）1 コマ
- 22) 薬学総合演習Ⅱ（薬学科 6 学年）1 コマ
- 23) 患者の安全と薬害防止（薬学科 3 学年）SGD8 コマ

（以下名古屋市立大学での実績）

2017年度

- 1) 医療機能系実習Ⅱ（薬学科 3 学年）2 コマ

2. その他特筆すべき教育業績

- 1) 長部 誠，薬物乱用防止講演，東京都立足立新田高等学校，3 月（2021）
- 2) 長部 誠，薬物乱用防止講演，東京都立荒川商業高等学校，12 月（2020）

- 3) 長部 誠, 大学説明会, 東京都立足立高等学校, 12月 (2020)
- 4) 長部 誠, 薬物乱用防止講演, 埼玉県立八潮高等学校, 12月 (2019)
- 5) 長部 誠, リカレント公開講座栄養と健康, 日本薬科大学, 9-12月 (2019)
- 6) 長部 誠, 薬物乱用防止講演, 東京都立荒川商業高等学校, 7月 (2018)